

糖質科学で未来を創る

2017年3月期 決算説明



<http://www.ehiza.jp/>



生化学工業株式会社

(証券コード:4548)

目次:2017年3月期 決算説明

■ 2017年3月期 実績 P3

- 売上高・利益(前期比) P4-7
- 修正予想比 P8

■ 2018年3月期業績予想 P9

- 売上高・利益 P10-11
- 研究開発費の推移 P12

■ 事業別販売状況

- 国内医薬品 P13
- 海外医薬品 P14-15
- LAL P16-17

■ 研究開発状況

- パイプラインリスト P18
- SI-6603(腰椎椎間板ヘルニア) P19
- SI-613(変形性関節症) P20-21
- SI-614(ドライアイ) P22

■ 利益配分に関する基本方針 P23

■ 参考資料 P24

<注意事項>

当資料は、経営戦略、業績見通し等の将来に関する記述を含んでいます。これらの記述は、生化学工業が現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでいます。実際の結果等は、様々な要素によりこれらの記述と大きく異なる可能性があります。また、当資料に含まれている医薬品等(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2017年3月期 業績の概要

(百万円)	'17.3期 実績	前期比		'17.3期 修正予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	29,589	-1,373	-4.4%	-60	-0.2%
営業利益	1,282	-862	-40.2%	+32	+2.6%
経常利益	2,477	-1,023	-29.2%	-172	-6.5%
当期純利益	1,787	-790	-30.7%	-212	-10.6%
研究開発費 (対売上高比率)	7,834 (26.5%)	-814 (-1.4pt)	-9.4%	-15 (±0.0pt)	-0.2%
期中平均為替レート (1US\$)	108.42円	-11.72円		下期前提比 +5.42円	

	'17.3期 実績	前期	'17.3期 修正予想
一株当たり当期純利益	31.55円	45.39円	35.30円
一株当たり年間配当金	31.00円※	26.00円	26.00円
配当性向	98.3%※	57.3%	73.7%
ROE(自己資本当期純利益率)	2.5%	3.7%	

2017年3月期 セグメント別売上高

(百万円)	'17.3期 実績	前期比	増減率
売上高	29,589	-1,373	-4.4%
医薬品事業	24,152	-1,365	-5.4%
国内医薬品	16,268	-659	-3.9%
海外医薬品	6,771	-528	-7.2%
医薬品原体	1,111	-177	-13.7%
LAL事業	5,437	-7	-0.1%
(海外売上高)	11,029	-551	-4.8%

* 売上高全体への為替影響: 約-1,240百万円

国内医薬品

➤ アルツ(関節機能改善剤)

- ・新容器投入に伴う数量増の一方、薬価引き下げ(-7.2%)の影響を受け減少



アルツ:
ヒアルロン酸を主成分
とする関節機能改善剤

➤ オペガン類(眼科手術補助剤)

- ・シエルガン発売により、薬価引き下げの影響をカバーし増加



シエルガン:
白内障手術で用いられる
オペガンシリーズの新製品
(2016年7月発売)

➤ ムコアップ(内視鏡用粘膜下注入材)

- ・前期に一過性の出荷増があったことから
ほぼ前期並み

2017年3月期 セグメント別売上高

(百万円)	'17.3期 実績	前期比	増減率
売上高	29,589	-1,373	-4.4%
医薬品事業	24,152	-1,365	-5.4%
国内医薬品	16,268	-659	-3.9%
海外医薬品	6,771	-528	-7.2%
医薬品原体	1,111	-177	-13.7%
LAL事業	5,437	-7	-0.1%
(海外売上高)	11,029	-551	-4.8%

* 売上高全体への為替影響: 約-1,240百万円

海外医薬品

▶ 米国Gel-One(単回投与)

- ・現地販売は本数ベースで3割弱増加
- ・当社売上は数量増の一方、円高や現地販売価格低下の影響などにより微減



Gel-One:
単回投与の関節機能改善剤

▶ アルツ類(複数回投与)

● 米国SUPARTZ FX:

- ・現地販売は、複数回投与の競合品が増加するなか、微減に留まる
- ・当社売上は円高の影響を受け減少

● 中国ARTZ:

- ・当社売上は、現地販売低下による出荷減に円高の影響が加わり減少

2017年3月期 セグメント別売上高

(百万円)	'17.3期 実績	前期比	増減率
売上高	29,589	-1,373	-4.4%
医薬品事業	24,152	-1,365	-5.4%
国内医薬品	16,268	-659	-3.9%
海外医薬品	6,771	-528	-7.2%
医薬品原体	1,111	-177	-13.7%
LAL事業	5,437	-7	-0.1%
(海外売上高)	11,029	-551	-4.8%

* 売上高全体への為替影響: 約-1,240百万円

医薬品原体

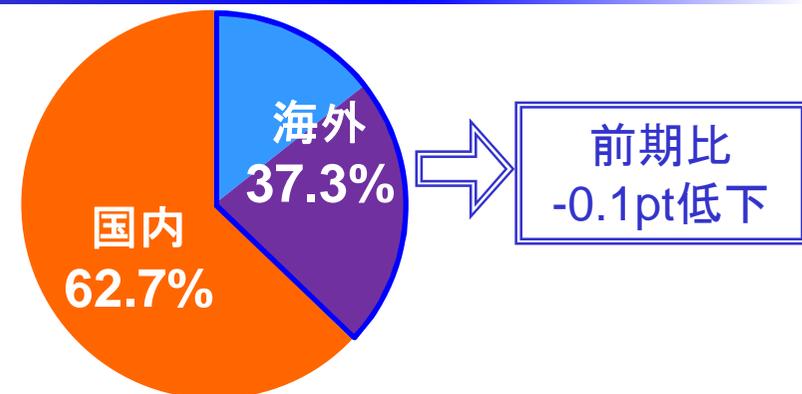
- ・コンドロイチン硫酸は増加したが
ヒアルロン酸の競合が厳しく、減少

* 医薬品原体: 医薬品向けの高純度、高品質な
ヒアルロン酸およびコンドロイチン硫酸

LAL事業

- ・海外販売が現地通貨ベースでは増加したが
為替影響を受け、前期並み

海外売上高比率



■ 海外LAL・原体 ■ 海外医薬品 ■ 国内売上高

2017年3月期 利益(前期比)

(百万円)	'17.3期 実績	前期比	増減率
売上高	29,589	-1,373	-4.4%
売上原価 (原価率)	13,247 (44.8%)	+376 (+3.2pt)	+2.9%
販管費	15,059	-887	-5.6%
研究開発費 (対売上高比率)	7,834 (26.5%)	-814 (-1.4pt)	-9.4%
営業利益 (営業利益率)	1,282 (4.3%)	-862 (-2.6pt)	-40.2%
経常利益	2,477	-1,023	-29.2%
当期純利益	1,787	-790	-30.7%
減価償却費	2,920	-271	-8.5%

営業利益

原価率(+3.2pt):

薬価引き下げや円高の影響に加え、
アルツ新容器投入に伴う一過性要因により
上昇

販管費(-887):

研究開発費などが減少

当期純利益

営業外損益(-161):

- 投資有価証券売却益が減少(-340)
- 円高に伴い為替差損が増加(-90)
- 受取ロイヤリティーが増加(+316)

法人税等(税率 27.8%):

米国子会社の利益割合増加に伴い
税率上昇(+1.5pt)

2017年3月期 業績(修正予想比)

(百万円)	'17.3期 実績	修正 予想比	増減率
売上高	29,589	-60	-0.2%
営業利益 (営業利益率)	1,282 (4.3%)	+32 (+0.1pt)	+2.6%
経常利益	2,477	-172	-6.5%
当期純利益	1,787	-212	-10.6%

原価率	44.8%	+1.0pt	
研究開発費 (対売上高比率)	7,834 (26.5%)	-15 (±0.0pt)	-0.2%
減価償却費	2,920	-29	-1.0%

売上高

医薬品事業(-347)

- 海外医薬品(-328): Gel-Oneが未達

LAL事業(+287)

円安効果及び海外販売が上振れ

* 売上高全体への為替影響: 約+320百万円

営業利益

原価率(+1.0pt):

製品構成要因(Gel-One減少)等

販管費(-340):

営業費や本社費が減少

当期純利益

営業外損益(-205):

- 円安進行により為替差損が縮小
- 受取ロイヤリティーが下振れ

2018年3月期 業績予想の概要

(百万円)	'18.3期 予想	'17.3期 実績		
		金額	増減額	増減率
売上高	30,300	29,589	+710	+2.4%
営業利益	1,500	1,282	+217	+17.0%
経常利益	3,750	2,477	+1,272	+51.4%
当期純利益	2,700	1,787	+912	+51.0%
研究開発費 (対売上高比率)	8,350 (27.6%)	7,834 (26.5%)	+515 (+1.1pt)	+6.6%
期中平均為替レート (1US\$)	108.00円	108.42円	-0.42円	

	'18.3期 予想	'17.3期 実績
一株当たり当期純利益	47.65円	31.55円
一株当たり年間配当金	26.00円	31.00円*
配当性向	54.6%	98.3%

為替感応度 (US\$ 1円変動時の年間影響額)	
売上高	約110百万円
営業利益	約45百万円

2018年3月期 業績予想(売上高)

(百万円)	'18.3期 予想	'17.3期 実績	
		増減額	増減率
売上高	30,300	+710	+2.4%
医薬品事業	24,550	+397	+1.6%
国内医薬品	16,350	+81	+0.5%
海外医薬品	7,200	+428	+6.3%
医薬品原体	1,000	-111	-10.1%
LAL事業	5,750	+312	+5.8%
(海外売上高)	11,900	+870	+7.9%

* 売上高全体への為替影響:-約80百万円

売上高

Gel-Oneや海外LAL事業の
販売拡大により増加

医薬品事業

国内医薬品:

- シエルガンが伸びるも、既存製品は
前期並みを見込む

海外医薬品:

- Gel-Oneの出荷増加を見込む

医薬品原体:

- ヒアルロン酸の市場環境が厳しく減収

LAL事業

米国子会社ACC社の売上が拡大

2018年3月期 業績予想(利益)

(百万円)	'18.3期 予想	'17.3期 実績	
		増減額	増減率
売上高	30,300	+710	+2.4%
営業利益 (営業利益率)	1,500 (5.0%)	+217 (+0.7pt)	+17.0%
経常利益	3,750	+1,272	+51.4%
当期純利益	2,700	+912	+51.0%
原価率	42.1%	-2.7pt	
研究開発費 (対売上高比率)	8,350 (27.6%)	+515 (+1.1pt)	+6.6%
減価償却費	2,950	+29	+1.0%

利益

研究開発費を中心とした販管費の増加を増収や原価率改善でカバーし増益

営業利益

原価率(42.1%) :

- アルツ新容器投入に伴う一過性要因がなくなり原価率低下(-2.7pt)

販管費(約+1,000) :

- SI-613や非臨床テーマ関連の研究開発費が増加
- 米国子会社ACC社等の営業費が増加

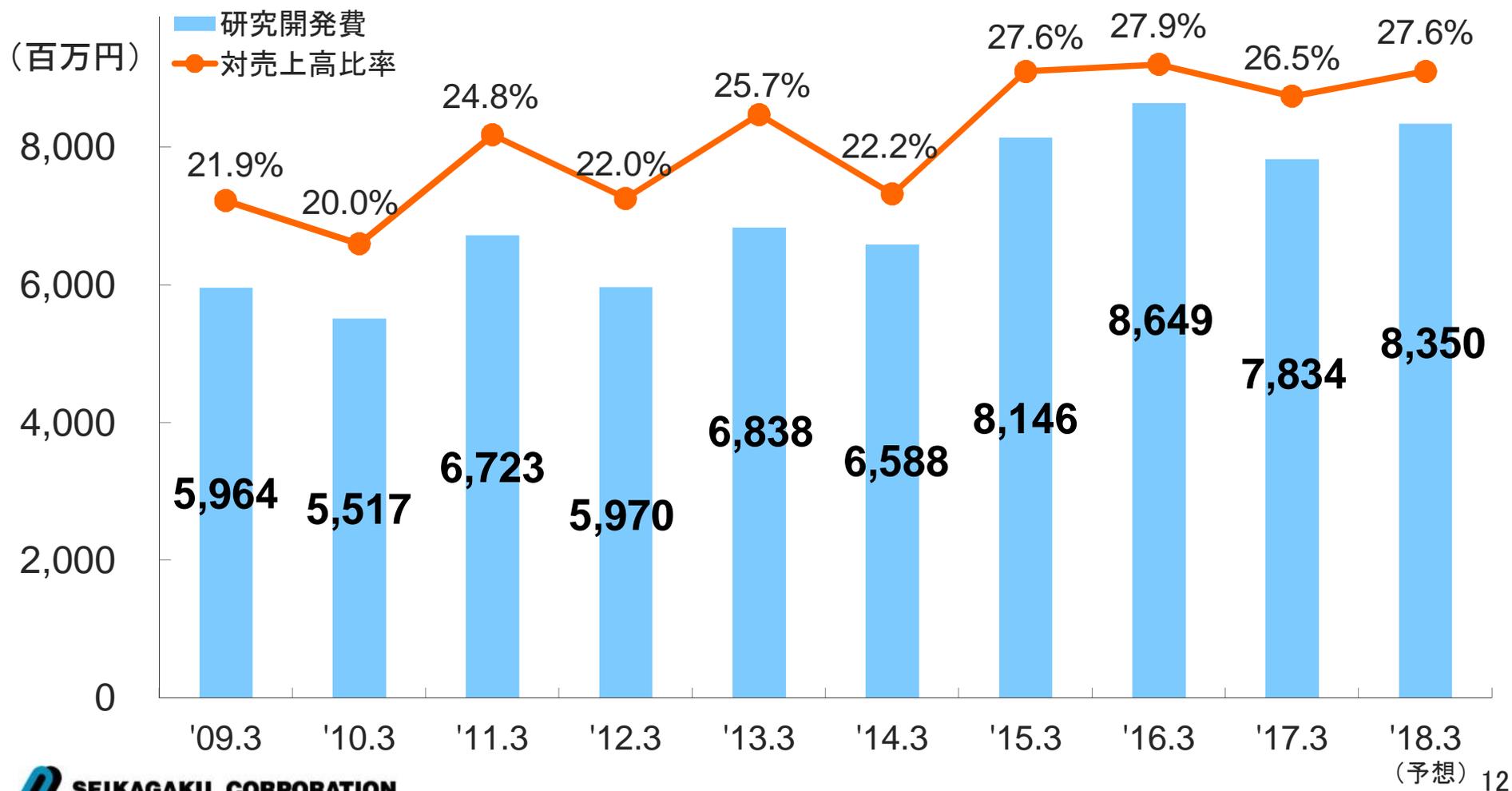
当期純利益

営業外収益(約+1,050) :

- 受取ロイヤリティーの増加を見込む

研究開発費の推移

今後も高水準を見込む(対売上高比率:25~30%)が
優先順位を付けつつ効率的な研究開発を推進



国内医薬品の販売状況 (医療機関納入本数ベース/前期比)

関節機能改善剤 アルツ	'17.3期 実績	'18.3期 予想	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 新容器投入に伴う積極的な販売活動を展開 ● 競合品からのシェア獲得 <p>アルツ伸び率: +1.9% (市場伸び率: +0.4%) 市場シェア: 58.5% (+0.8pt)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アルツ発売30周年記念施策を推進 ● 市場を上回る伸びを目指す <p>● アルツ伸び率 +1.0%(予想)</p>	<p>● 市場シェア 58.9%(予想)</p>
眼科手術補助剤 オペガン (シエルガンを含む)	'17.3期 実績	'18.3期 予想	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 新製品シエルガンの市場浸透が順調に進む ● 市場シェアが大幅に回復 <p>オペガン伸び率: +12.1% (市場伸び率: +2.7%) 市場シェア: 36.4% (+3.0pt)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● シエルガンの製品特性をアピールし、販売攻勢を図る ● 競合品からのシェア奪回を推進 <p>● オペガン伸び率 +14.6%(予想)</p>	<p>● 市場シェア 41.0%(予想)</p>

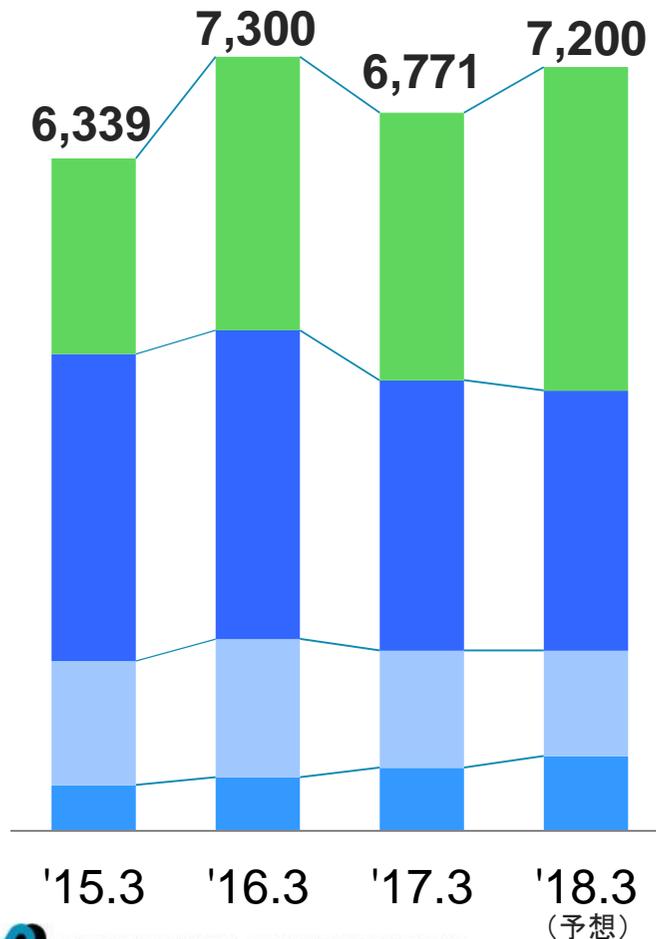
海外医薬品の販売状況（'17.3期実績・前期比/金額ベース）

海外医薬品の売上推移

（百万円）

<内訳>

■ 米国Gel-One ■ 米国SUPARTZ FX
■ 中国ARTZ ■ その他



'17.3期 実績

-7.2%

円高や複数回投与製品の数量減により減収

※為替影響:-約7.3億円

Gel-One(単回投与)

- 現地販売: 30%弱の伸びが継続(本数ベース)
- 当社輸出: 出荷数量は15%増に留まる。円高や現地販売価格低下の影響を受け、微減

アルツ類(複数回投与)

- 米国SUPARTZ FX
競争製品の増加など、市場環境は厳しさを増すが現地販売は健闘し、微減に留まる
- 中国ARTZ
政府による価格抑制策等により、低下傾向が続く(本数ベース: 前期比10%減)
- 当社輸出
円高に加え、数量減により米国・中国ともに減少

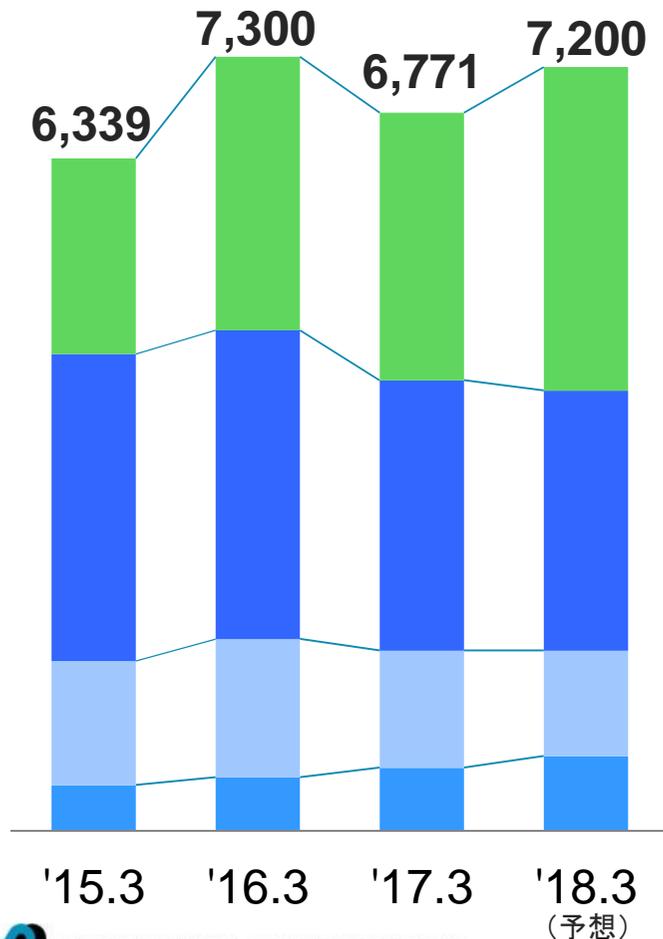
海外医薬品の販売状況（'18.3期予想・前期比/金額ベース）

海外医薬品の売上推移

（百万円）

<内訳>

■ 米国Gel-One ■ 米国SUPARTZ FX
■ 中国ARTZ ■ その他



'18.3期 予想
+6.3%

複数回投与製品の減少を
米国Gel-Oneでカバーし、増収
※為替影響:-約0.4億円

Gel-One(単回投与)

- 現地販売:引き続き30%増(本数ベース)を目指す
- 当社輸出:数量増で価格低下の影響をカバーし増収

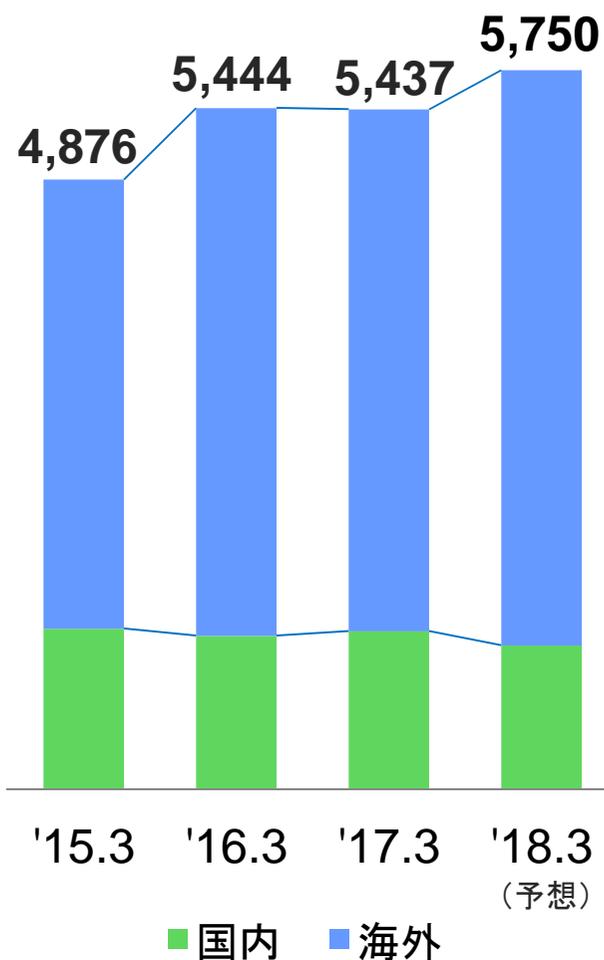
アルツ類(複数回投与)

- 米国SUPARTZ FX
学術情報提供の充実を図るが、引き続き減少を見込む
- 中国ARTZ
新制度下での販売施策を展開し、前期並みを目指す
- 当社輸出
米国SUPARTZ FXの価格低下、
中国出荷減により減少

LAL事業の販売状況(金額ベース/前期比)

LAL事業の売上推移

(百万円)



'17.3期 実績: -0.1%(前期比)

海外

品質管理用エンドトキシン測定用試薬等の
現地販売は増加したが、為替影響を受け微減

国内

販売先の一括購入等により増加

'18.3期 予想: +5.8%(前期比)

海外

米国子会社ACC社における販売拡大を見込む

国内

透析病院向けの販売が減少

LAL事業: 医薬品・医療機器の品質管理に使用される
エンドトキシン測定用試薬*などを製造・販売

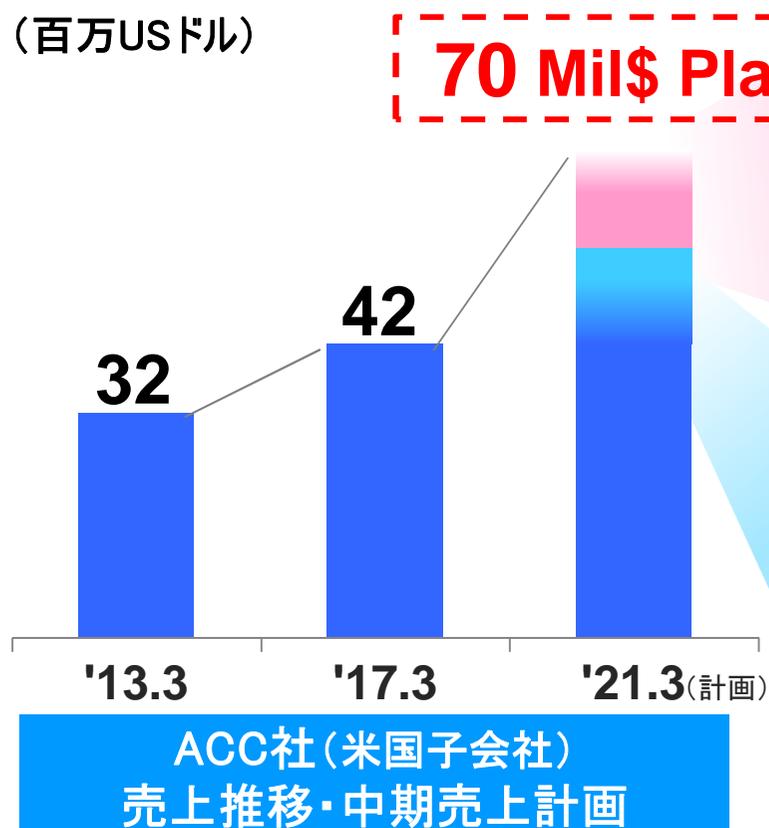
*エンドトキシン測定用試薬: Limulus Amebocyte Lysate (LAL: カプトガニ血球抽出液)を
主成分とする試薬。エンドトキシンは、細菌に由来する物質であり、ごく微量で発熱を引き
起こすため、医薬品等では混入の有無を試験することが義務付けられている。

ACC社(米国子会社)の成長戦略



LAL事業の核となるACC社の 販売拡大を加速させる

(百万USD)



■ 新販路・新規分野開拓

- ✓ 新販路の開拓・拡大
(代理店経由⇒直接販売体制への移行推進)
- ✓ 別業種との協業ビジネス立ち上げ

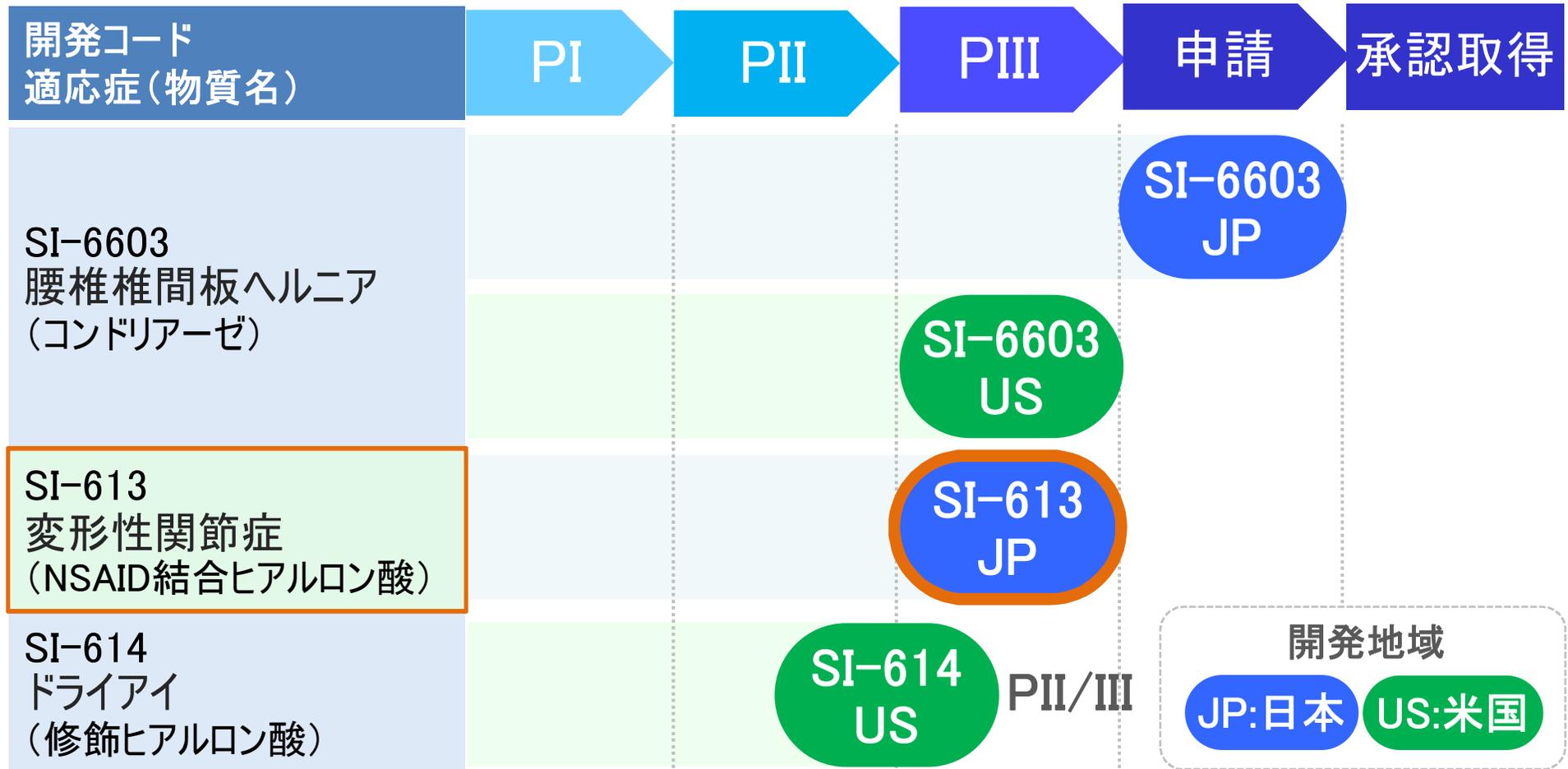
■ 既存ビジネスの強化

- ✓ 新製品・改良品上市により
競合からのシェア奪取
- ✓ 販売員採用による営業力増強
- ✓ 受託検査サービスの拡充

LAL事業: 医薬品・医療機器の品質管理に使用されるエンドトキシン測定用試薬などを製造・販売
ACC社: ASSOCIATES OF CAPE COD, INC.(米国子会社)

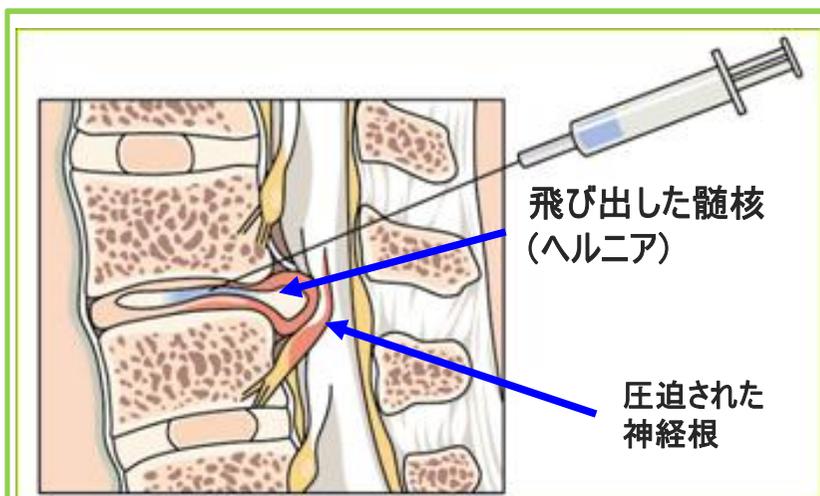
パイプラインリスト(研究開発テーマ一覧)

専門分野である糖質科学に焦点を絞り
新製品の早期かつ継続的な上市を目指す



SI-6603 (腰椎椎間板ヘルニア治療剤) の概要

ヘルニアを縮小し神経への圧迫を減少させ、痛みの軽減を目指す



- 物質名 : コンドリアーゼ
- 適応症 : 腰椎椎間板ヘルニア
- 用法 : 椎間板への注射
(X線透視下で投与)

日本 : 申請中

- 2014年1月 : 承認申請 審査継続中
- ※製造工程における品質管理に関する審査が継続
引き続き、早期の承認取得を目指す

米国 : PIII

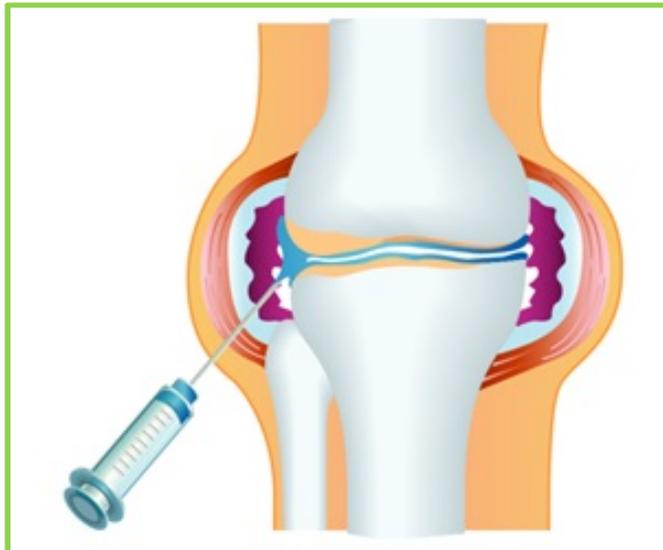
- 2015年7月 : 二重盲検試験の症例登録完了
⇒ 経過観察中
- 2016年8月 : フェリング社とのライセンス契約締結
- 2017年3月 : オープン試験の経過観察終了
⇒ 試験結果の取りまとめ中

期待される特徴:

- 髄核の主要成分GAG(コンドロイチン硫酸等)を特異的に分解することで、ヘルニアによる神経圧迫を減少させ、痛みを軽減する
- タンパク質分解能を有しないため、血管・神経等への有害作用がない
- 1回の注射で摘出手術の代替療法となることが期待される

SI-613（関節機能改善剤）の概要

変形性関節症に伴う強い痛みや炎症を 速やかかつ長期間にわたり改善することを目指す



- 物質名：SI-613 (NSAID*¹結合ヒアルロン酸)
- 適応症：変形性関節症
- 用法：関節腔内への注射

日本：PIII

- 2016年 1月：PII試験（反復投与）終了
- 2017年 2月：PIII試験（検証的試験）開始
- 2017年 5月：**小野薬品工業と共同開発及び
販売提携に関する基本合意書締結**
今後、米国を含むグローバル展開を目指す

期待される特徴：

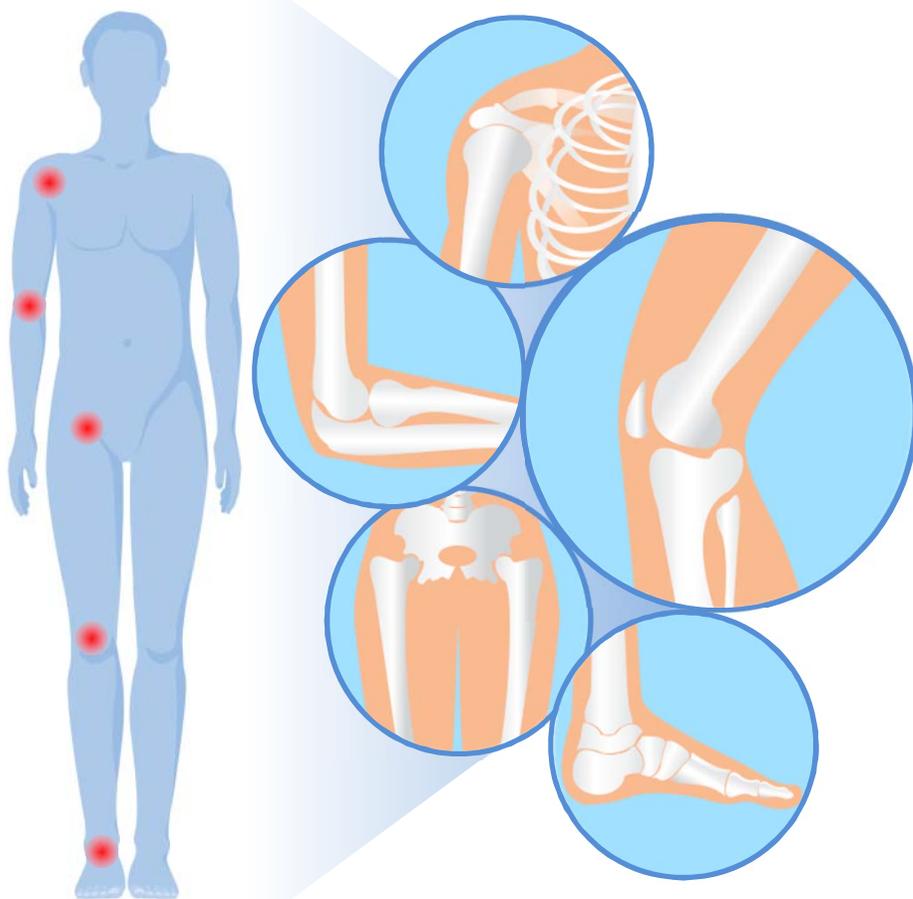
- 当社独自の薬剤結合技術を用いてヒアルロン酸とNSAID*¹を結合し、NSAIDが徐放化*²されるよう設計することで、変形性関節症に見られる強い痛みや炎症を速やかかつ長期間にわたり改善
- NSAIDの経口剤・貼付剤投与と比較し、副作用が少ない
- 膝以外の関節への投与を可能とすることで、対象となる患者層の拡大を目指す

*¹ NSAID: 非ステロイド性抗炎症薬(Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drug)

*²徐放化: 薬物の有効成分が徐々に放出されるよう調節し、治療効果を長期間持続させること

SI-613（関節機能改善剤）日本第III相臨床試験

試験対象は膝、股、足首、肘、肩の5部位 3本の試験を実施予定



日本：PIII

- 検証的試験（膝関節）
⇒ 2017年2月開始
- 4部位臨床試験（股、足首、肘、肩）
- 長期投与試験（膝関節）
⇒ 2018年3月期中に開始予定

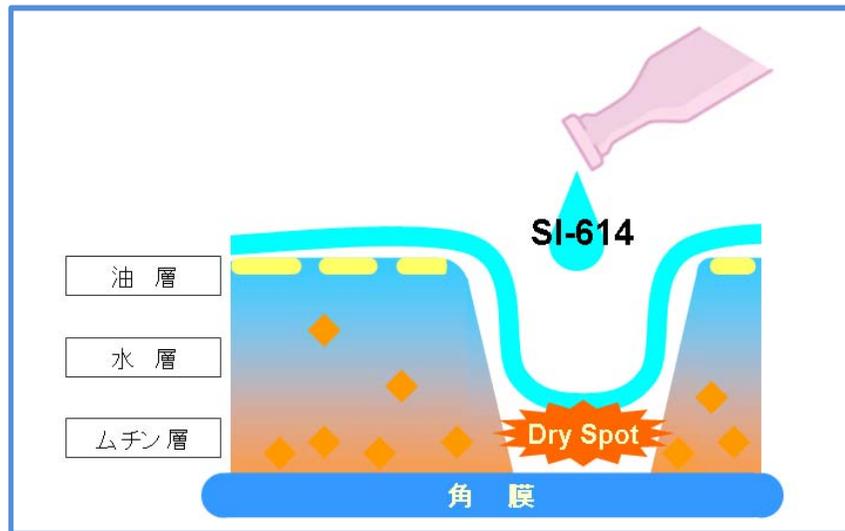
日本における変形性関節症 年間受診患者数

（膝・股・足首・肘・肩の合計、当社推計）

- ◆ 年間 約870万人
（内、膝関節が約750万人を占める）

SI-614（ドライアイ治療剤）の概要

眼表面保護作用と角膜創傷治癒促進作用により ドライアイの諸症状改善を目指す



- 物質名 : SI-614（修飾ヒアルロン酸）
- 適応症 : ドライアイ
- 用法 : 点眼

米国 : PII/III

- 2015年 1月 : PII/III試験終了
⇒ PIII試験について検討を行うとともに、提携先の選定を進める

期待される特徴：

- 当社独自のヒアルロン酸修飾技術を用いて創生した化合物
- ドライアイ患者の眼表面保護作用と角膜創傷治癒促進作用により、ドライアイの諸症状を改善
- ドライアイは、多因子疾患であるものの、米国では副作用が強い薬剤の選択肢しかなく新規かつ安全性の高い治療オプションを提供することが可能

利益配分に関する基本方針

株主還元の充実と事業投資にバランスよく取り組むことで 持続的成長の実現を目指す

<株主還元>

- **創立70周年記念配当**（2017年6月定時株主総会付議事項）
 - ⇒ 17年3月期は、**記念配当5円を加え、1株当たり年間配当31円を予定**
- 中長期的な視点に立ち、安定的かつ継続的な配当を目指す
 - ⇒ 18年3月期は、**1株当たり年間26円を継続する方針**
- 事業展開や総還元性向を勘案し、自己株式取得を適宜検討

<事業投資>

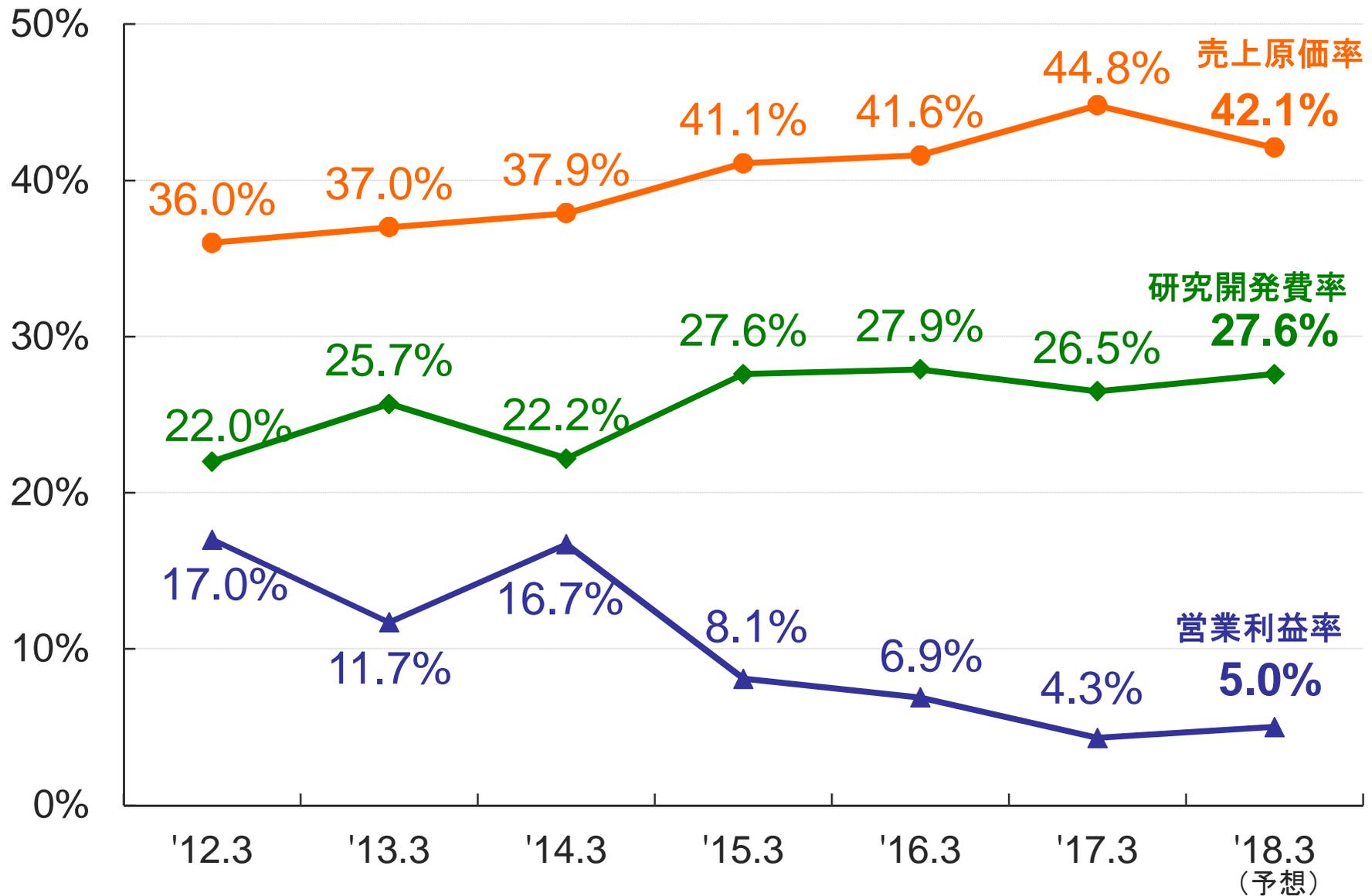
- 研究開発や生産体制整備等への事業投資

	'13.3期	'14.3期	'15.3期	'16.3期	'17.3期	'18.3期 (予想)
一株当たり当期純利益	57.33円	83.55円	64.27円	45.39円	31.55円	47.65円
一株当たり年間配当金	25.00円	26.00円	26.00円	26.00円	31.00円 [※]	26.00円
配当性向	43.6%	31.1%	40.5%	57.3%	98.3% [※]	54.6%

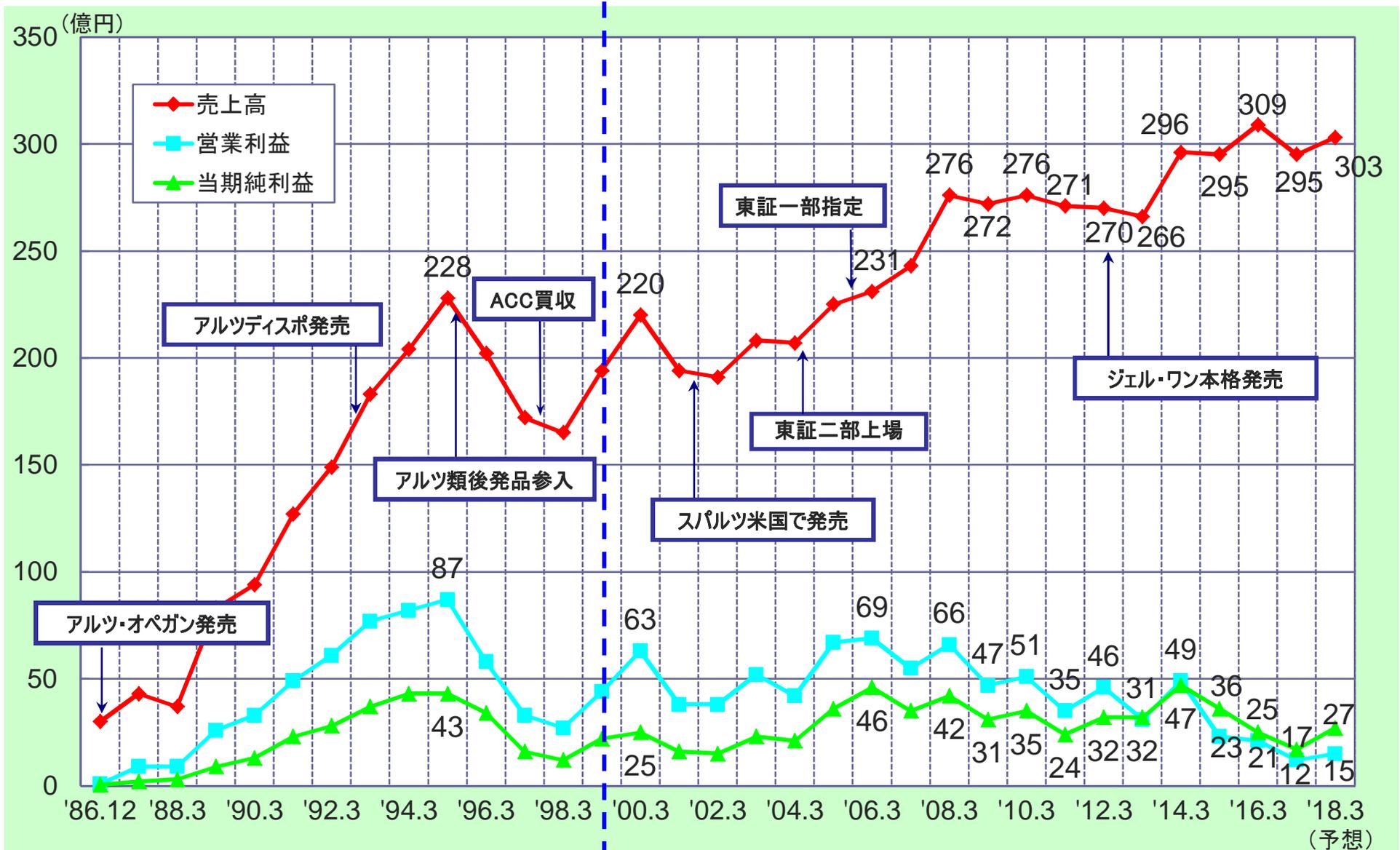
参考資料



主な経営指標の推移



業績の推移と主なトピックス

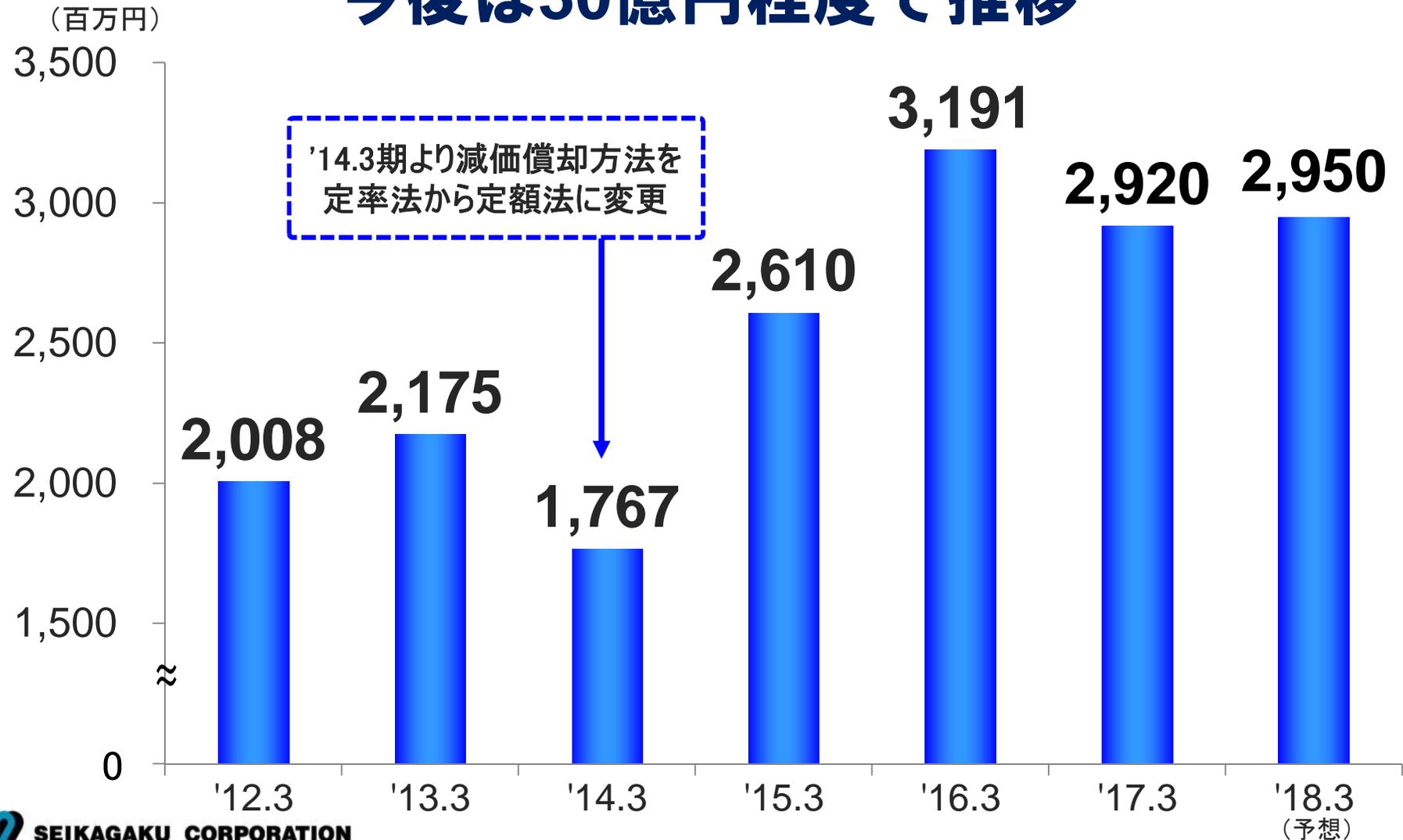


設備投資の推移

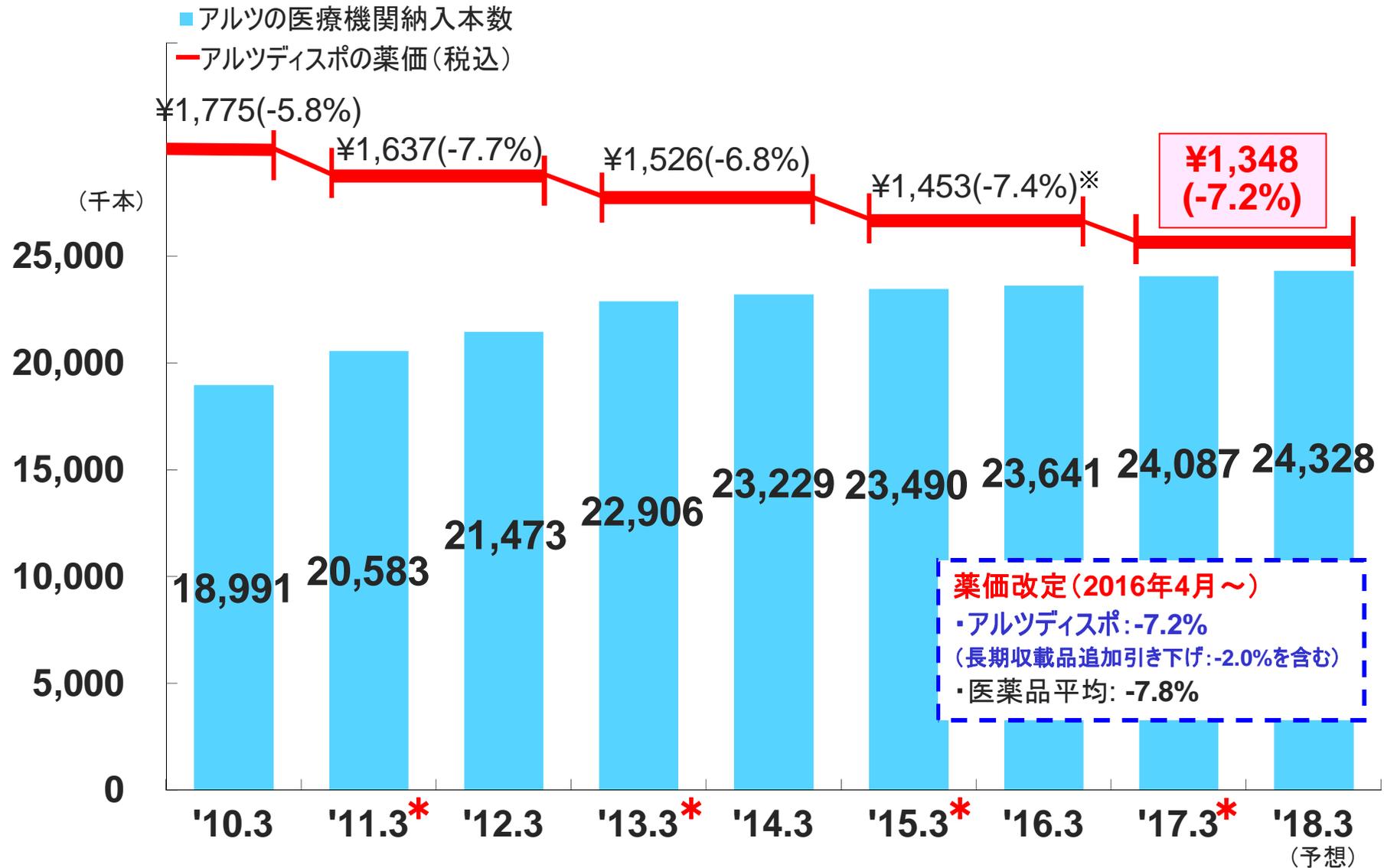
設備名	投資額	'12.3	'13.3	'14.3	'15.3	'16.3	'17.3	'18.3 (予想)
SI-6603原薬 製造設備	11億円				着工 '14.10			
第5製剤棟 (アルツディスポ用)	96億円	着工 '12.3				稼働 '15.1		
ヒアルロン酸 原体製造設備	31億円	着工 '12.1			稼働 '14.2			
Gel-One製造設備	30億円	着工 '11.12			稼働 '13.10			
コンドロイチン硫酸 原体製造設備	12億円		稼働 '12.7					
設備投資額(百万円)		5,718	9,164	7,222	2,095	1,975	1,173	2,000

減価償却費の推移

減価償却費は2016.3期がピーク
今後は30億円程度で推移



アルツの医療機関納入本数と薬価の推移



* 薬価改定年

※: 改定率は、消費税増税の影響を除いた実質改定率

国内医薬品の医療機関納入本数推移

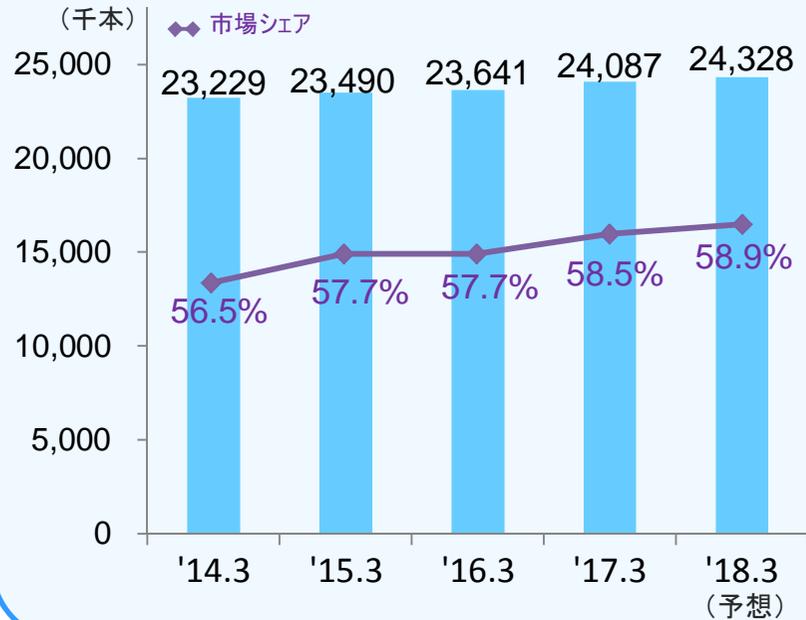
関節機能改善剤

アルツ



- 世界初のヒアルロン酸を主成分とした関節機能改善剤
- 変形性ひざ関節症における症状を改善
- 販売提携先: 科研製薬株式会社

医療機関納入本数の推移



眼科手術補助剤

オペガン



- 国産初のヒアルロン酸製剤
- 白内障手術の際に用いられ、眼内空間を保持して手術をサポート
- 販売提携先: 参天製薬株式会社

医療機関納入本数の推移



眼科手術補助剤シェルガン(2016年7月発売)

眼科手術補助剤

薬価基準収載

シェルガン® 0.5 眼粘弾剤

精製ヒアルロン酸ナトリウム/コンドロイチン硫酸エステルナトリウム



新製品シェルガンを発売

- 近年、普及が進む手術手技に対応
- 室温保存が可能
 - ⇒ 競合品にない製品特性を有する
- オペガンシリーズのラインナップ強化
 - ⇒ 全7製品となり、症状や医師のニーズにあわせた選択肢が拡大



主に白内障手術で使用されるオペガンシリーズ

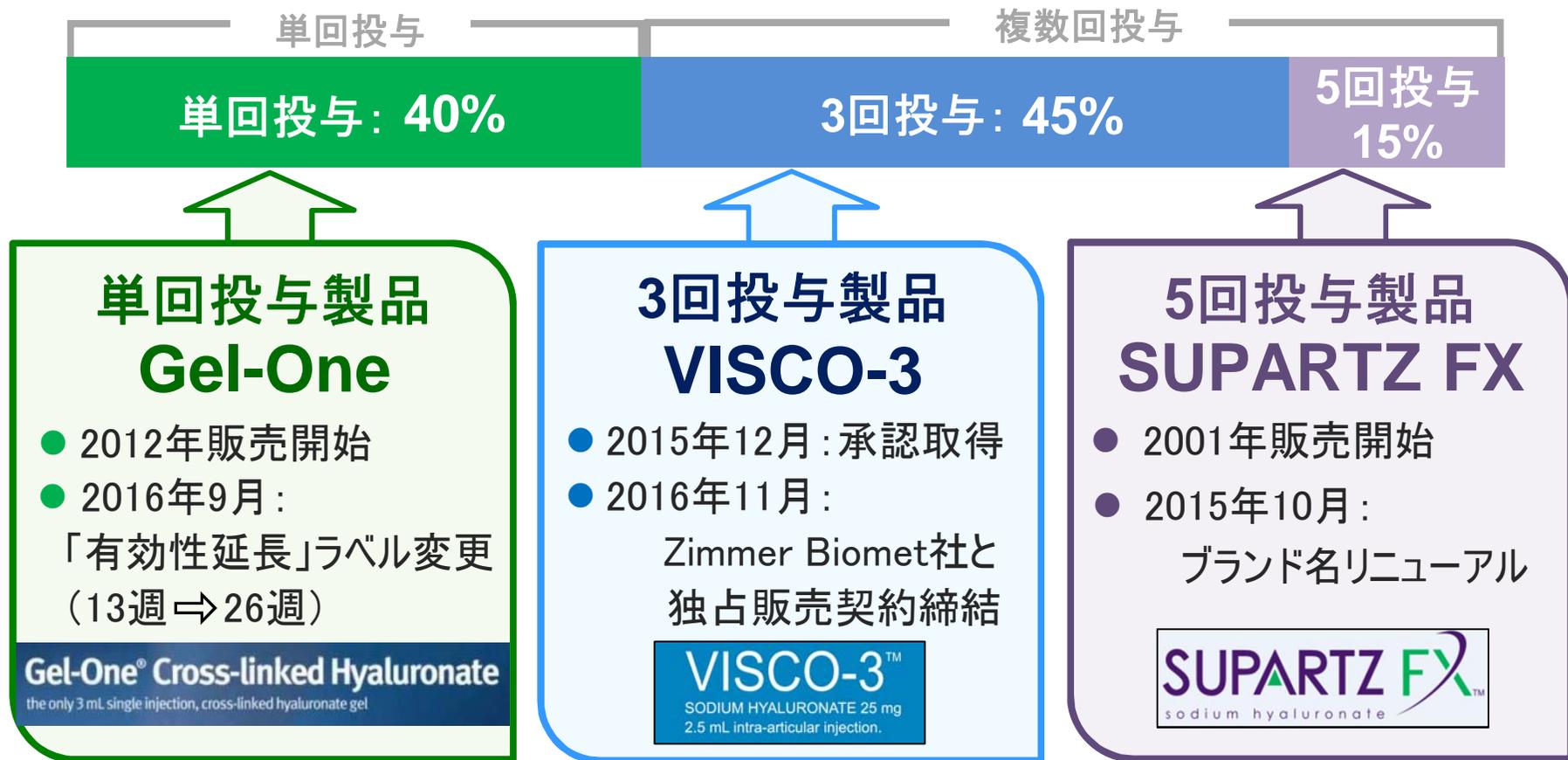


オペガンシリーズの粘弾性比較

米国における製品プレゼンス向上施策

関節機能改善剤のリーディングカンパニーとして 製品価値向上・ラインナップ強化を推進

■ 米国市場の投与回数別シェア（金額ベース、他社製品含む。数値は2016年、当社推計）



米国におけるヒアルロン酸製剤の市場状況

変形性ひざ関節症の患者数(推計)



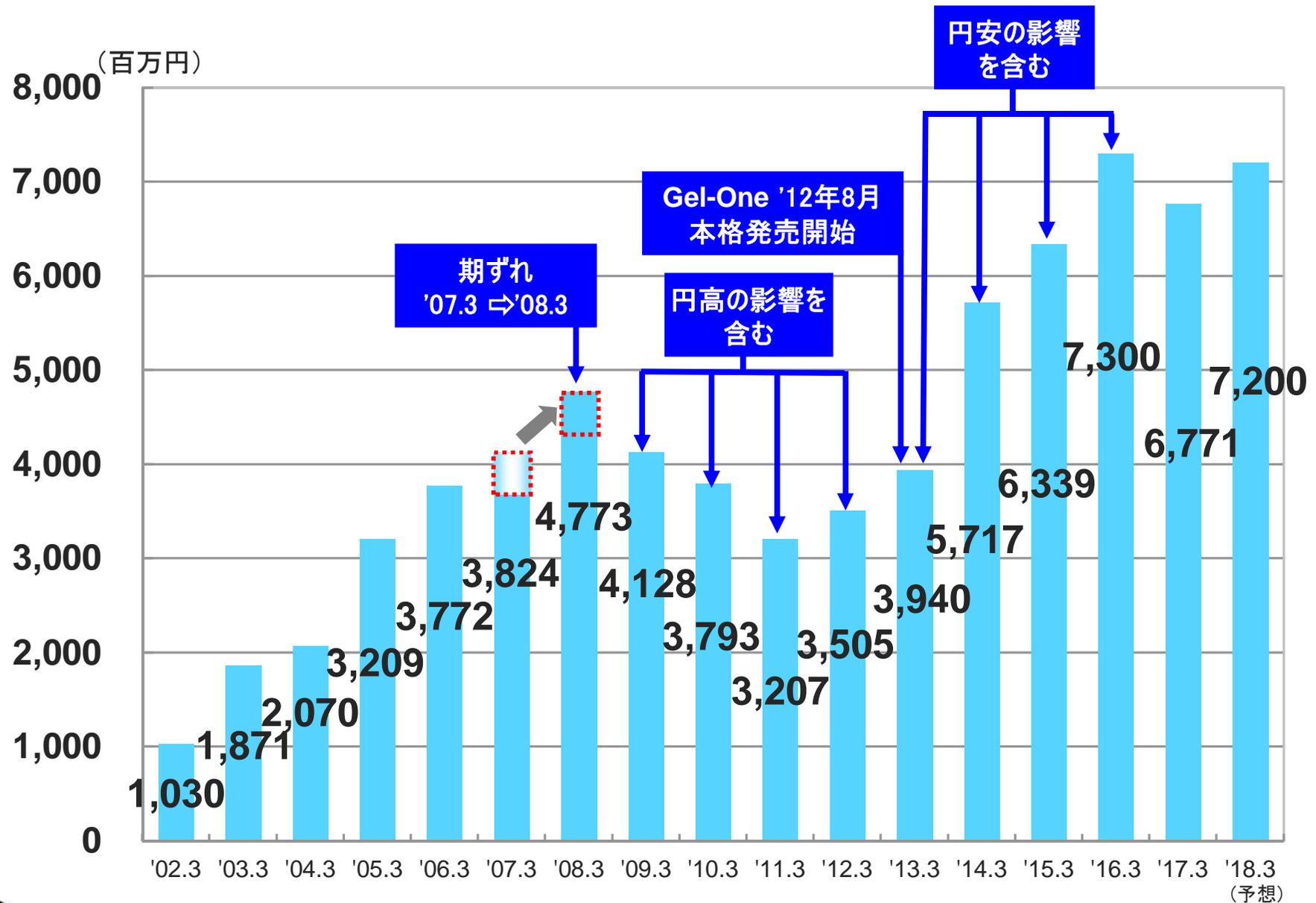
顕在患者のうち、ヒアルロン酸製剤の使用比率は約1割
⇒大きな拡大余地が残されている

ヒアルロン酸製剤市場(推計)



* 数値は当社推計

海外向けヒアルロン酸製剤の販売推移



LAL事業について

LAL事業とは

医薬品等の品質管理や、病院での人工透析における水質管理に使用される試薬*などを製造・販売

- * エンドトキシン測定用試薬: Limulus Amebocyte Lysate (LAL:カプトガニ血球抽出液)を主成分とする試薬。
- * エンドトキシン: 細菌に由来する物質でごく微量で発熱を引き起こすため、医薬品等では混入の有無を試験することが義務付けられている。

➤ **世界市場規模: 約250億円**
(当社推定・関連機器類含む)



エンドトキシン測定用試薬
(医薬品・医療機器の品質管理用)

Associates of Cape Cod, Inc. (ACC社)

- 生化学工業の米国子会社
(1974年設立、1997年に当社が買収)
- 1977年に世界で初めてエンドトキシン測定用試薬を開発し、FDA承認取得
- 世界80か国に販売網を展開
- 近年の業績は堅調に推移



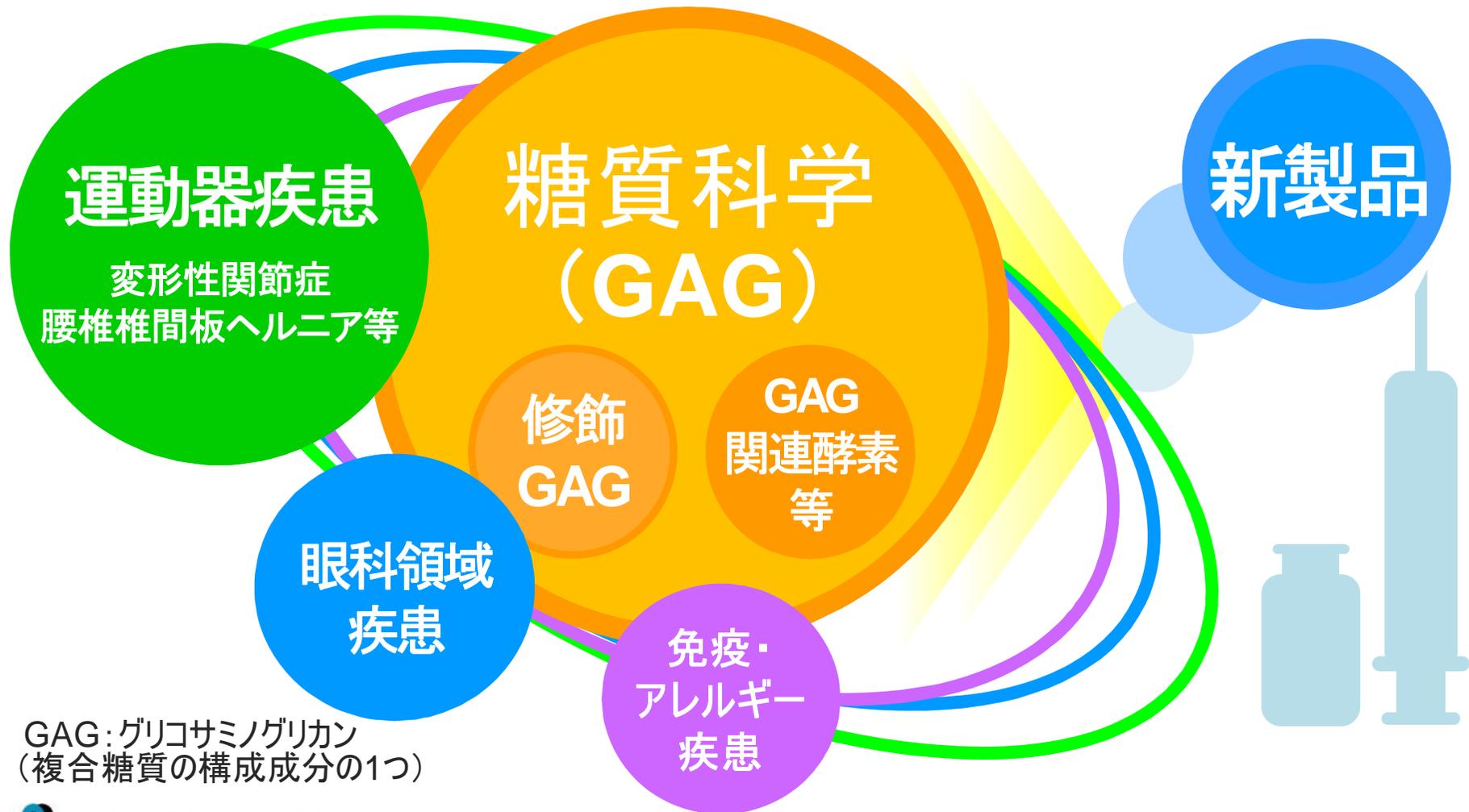
パイロクロム (PYROCHROME®)



ACC社 外観

研究開発基本方針

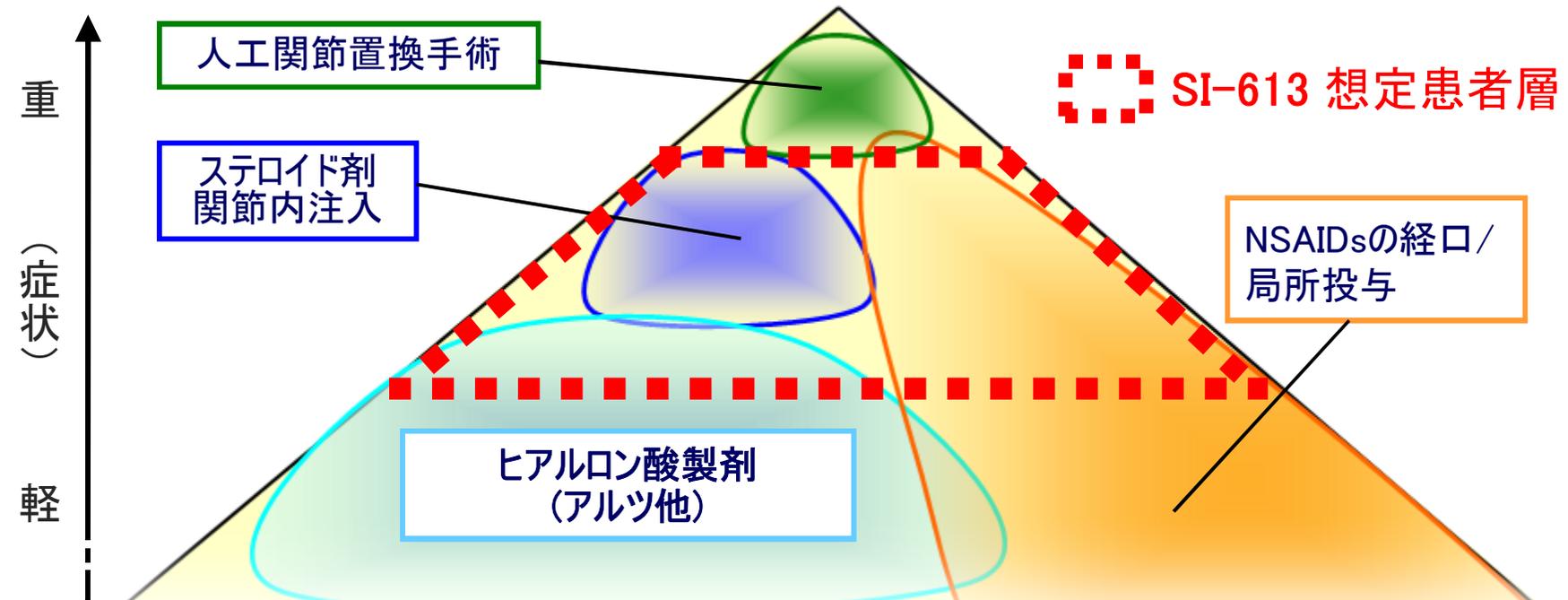
専門分野である糖質科学に焦点を絞り
医療ニーズが高い新製品の早期かつ継続的な上市を目指す



GAG: グリコサミノグリカン
(複合糖質の構成成分の1つ)

SI-613(関節機能改善剤)の想定患者層

強い痛みを持ちNSAIDsの経口・局所投与、またはステロイド剤の関節内注入などを処方されている患者層を想定



日本での対象市場規模 (ひざ以外の適応を含む)	NSAIDs経口剤	約 880 億円
	NSAIDs局所製剤	約1,570億円
	ヒアルロン酸製剤	約 480 億円
	ステロイド注射剤	約 120 億円

SI-6603 (腰椎椎間板ヘルニア治療剤) 契約状況

海外における独占開発・販売権をフェリング社に許諾
今後の進捗に応じて最大90百万ドルの
マイルストーン型ロイヤリティー受領を予定

海外：フェリング・ファーマシューティカルズ社(スイス)



生化学工業株式会社

- 1950年創立の研究開発型バイオ医薬品企業
- グローバル売上高：18億ユーロ(2015年)
- 2016年8月：全世界(日本を除く)を対象とする
独占開発・販売のライセンス契約を締結



フェリング社本社(スイス・サンブレ市)外観

日本：科研製薬株式会社

- 関節機能改善剤アルツの販売提携先
- 2012年12月：国内独占販売契約を締結

生化学工業10年ビジョンと新中期経営計画

10年ビジョン “グローバル・カテゴリー・ファーマ”

糖質科学に研究開発の焦点を絞って、国際競争力を確立する

【最終ステップ】

10年ビジョンの達成と
更なる飛躍

第2ステップ

10年ビジョン達成に向けた萌芽形成

2016-2018

第1ステップ

基礎体力の養成と体制の構築

2012-2015

2009-2011

ACT for the Vision

Active spirit · Creative mind · Takeoff

積極的な姿勢と

創造的な発想で

飛躍していく

事業環境の厳しさをはねのけ、10年ビジョンを達成し
“グローバル・カテゴリー・ファーマ”として勝ち残る

新中期経営計画: 4つの重点戦略

1.

腰椎椎間板ヘルニア
治療剤SI-6603の
確実な進展

2.

変形性ひざ関節症市場に
おけるリーディング
カンパニーとしての進化

3.

開発パイプラインの充実

4.

最適な生産・品質管理
体制の追求

10年ビジョンの達成と更なる飛躍

新中期経営計画: 数値目標と前提条件

2019.3期目標 **売上高：320億円**
営業利益：25億円
経常利益：45億円

《数値目標の前提条件》

- 海外事業の拡大で国内薬価改定による減収をカバー（海外売上高比率：45%）
- 研究開発費は高水準で推移（対売上高比率：25%～30%）
- 各種受取ロイヤリティーを営業外収益として織り込む
- 為替レート：対米ドル110円

10年ビジョンの達成と更なる飛躍

次への飛躍に向けたトピックス(成長イメージ図)

- 新製品: SI-6603が成長を牽引
- 海外既存製品: Gel-Oneの米国シェア拡大
LAL事業: 新製品開発・営業強化で更なる成長
- 国内既存製品: 薬価改定の影響で漸減



10年ビジョンの達成と更なる飛躍

生化学工業の特徴

1

糖質科学を専門分野とする研究開発型製薬企業

- 大手企業が参入し難いニッチな領域を手がける
- この領域に焦点を合わせた研究開発を **70年以上** 推進

2

ユニークなビジネスモデル

- **研究開発と製造**に特化
- 全従業員のうち、**約3分の1**が研究開発要員
- 売上高の **25%～30%**を研究開発費に投入

3

GAGに関する最先端の技術力

- **抽出・精製・培養**等、GAG関連製品の製造で高い技術力
- 修飾GAGや、GAG関連酵素等を活用した創薬技術

GAG:グリコサミノグリカン(複合糖質の構成成分の1つ)

生化学工業の事業と製品

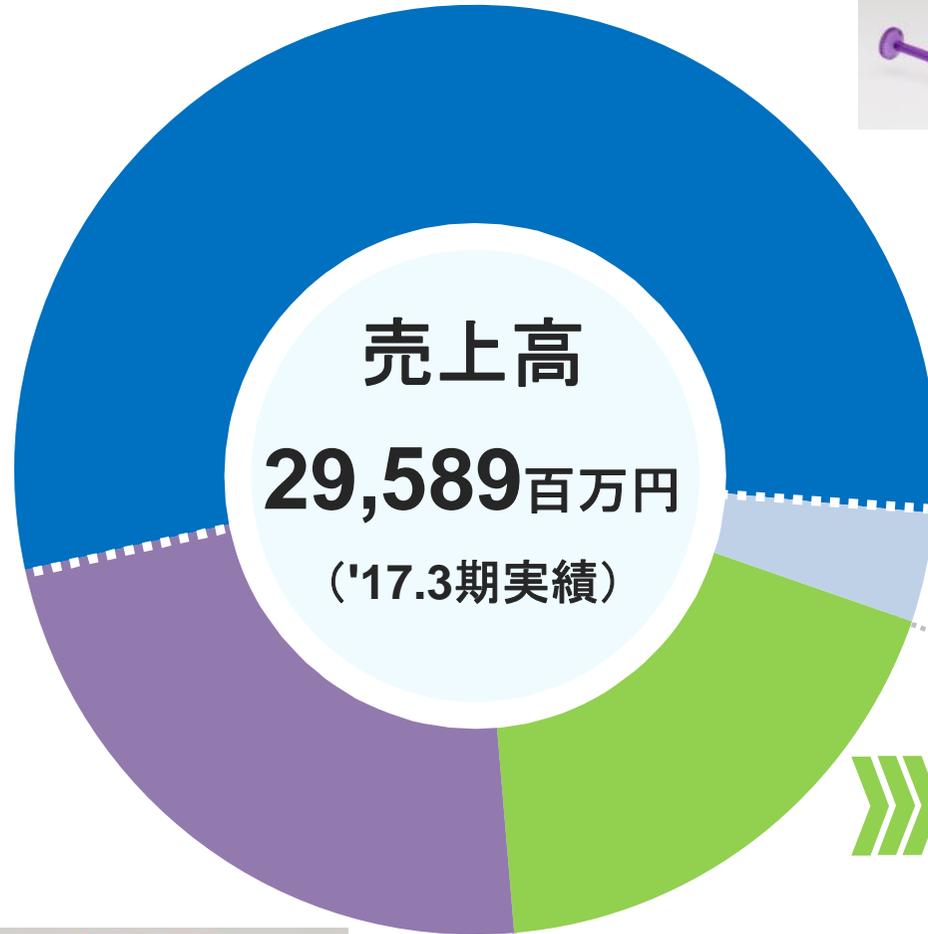
》》 医薬品事業 81.6%

国内医薬品
⇒55.0%

関節機能改善剤



海外医薬品
⇒22.9%



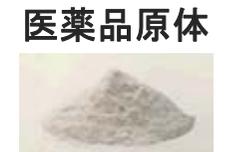
眼科手術補助剤



内視鏡用粘膜下注入材



医薬品原体
⇒3.8%



》》 LAL事業 18.4%

エンドトキシン測定用試薬
(医薬品・医療機器の
品質管理用)



主力製品：ヒアルロン酸製剤

アルツ[®] 変形性ひざ関節症における症状の改善(複数回投与製品)

- 世界初のヒアルロン酸を主成分とした関節機能改善剤
- 主要販売提携先:
 - 科研製薬 (日本)
 - Bioventus (米国) : SUPARTZ FX
 - Kunming Baker Norton Pharmaceutical (中国)



Gel-One[®] 変形性ひざ関節症における痛みの緩和(単回投与製品)

- より少量(3ml)で効果を示す単回投与製品
- 2012年8月より本格販売開始
- 販売提携先: Zimmer Biomet (米国)



糖質科学で未来を創る

■ 業績予想に関する留意点

当資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますので、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの将来に関する記述に全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は様々な要素により、これらの業績見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。



<http://www.ehiza.jp/>



生化学工業株式会社

Copyrights(C)2017 SEIKAGAKU CORPORATION. All rights reserved.